

第3学年だより

港区立六本木中学校
第3学年 第34号
平成30年 2月16日(金)

メダルの色がすべてじゃない

12日、高梨沙羅選手が、スキージャンプ女子初のメダルを獲得しました。

着地と同時に両手を突き上げる高梨選手のもとに伊藤選手ら4人が駆けつけ、抱き合い泣いている姿に世界中が感動しました。

17歳で金メダル候補と期待されながら4位でメダルを逃して涙した4年前のソチ大会。その悪夢を自らの力で解き放った瞬間です。



高梨選手は「最後の最後に良いジャンプが飛べた」と満足げな表情で会場に詰めかけた多くの日本人の声援に対し、両手で手を振り何度も頭を下げていました。表彰式では、台に飛び乗り最高の笑顔が弾けました。

試合後のインタビューでは「最後にここにきて一番いいジャンプが飛べた。何より日本のチームのみんなが下で待っていてくれたことがすごくうれしかった」と言葉を詰まらせていました。そして「銅メダルという結果に終わり、自分はまだ金メダルを取る器ではないと痛感させられた。これで終わるわけではないので、次の北京五輪で今度こそ金メダルを取りたい。応援してくれた方々に結果で感謝の気持ちを伝えられるようにやっていきたい」と4年後に向けて決意を語っていました。

2月10日から始まった私立高校一般入試を終えて登校してきた生徒達。学級担任が一人一人から合否の結果の報告を受けました。必ずしも最高の結果ではなかった生徒もいましたが15年間で初めての挑戦を終えてその表情は晴れがましく感じられました。4月から本格的に受験勉強を始め、定期考査の結果に一喜一憂し、夏休み返上で塾や家庭学習を頑張ってきました。夏休み・11月・12月と三者面談を重ね志望校を決め挑んだ受験本番。不安な気持ちを抑え試験問題に立ち向かっていきました。望んでいた結果が得られず、一人自分の部屋で、あるいは家族で涙した人も多かったはずで。

「今まで経験したことのない緊張」「試験3日目からは頭がボーッとしてきた。」「とにかく疲れた」…。でも「挑戦してよかった」

今までに経験したことのない不安と緊張の日々を乗り越えて大きく大人へと成長した生徒達に心から労いの言葉を贈りたい。「君たちは本当に本当によく頑張った！」

しかし仲間達の挑戦は続いています。都立高校一次・分割前期入試は2月23日。そこに挑戦するのは25人。高梨選手は「何より日本のチームのみんなが下で待っていてくれたことがすごくうれしかった。」と支えてくれる人たちの大切さを語っていました。3年生68人全員の進路が決まるまで一致団結していきましょう。全員の進路が決まったとき、挑戦してきた仲間達一人一人に祝福の拍手を送りましょう。

進路が決まった皆さん。

中学校の卒業試験にあたる学年末考査が2月26日から始まります。「中学校の学習の総まとめ」として「定期考査の自己ベスト」を目指してがんばりましょう。